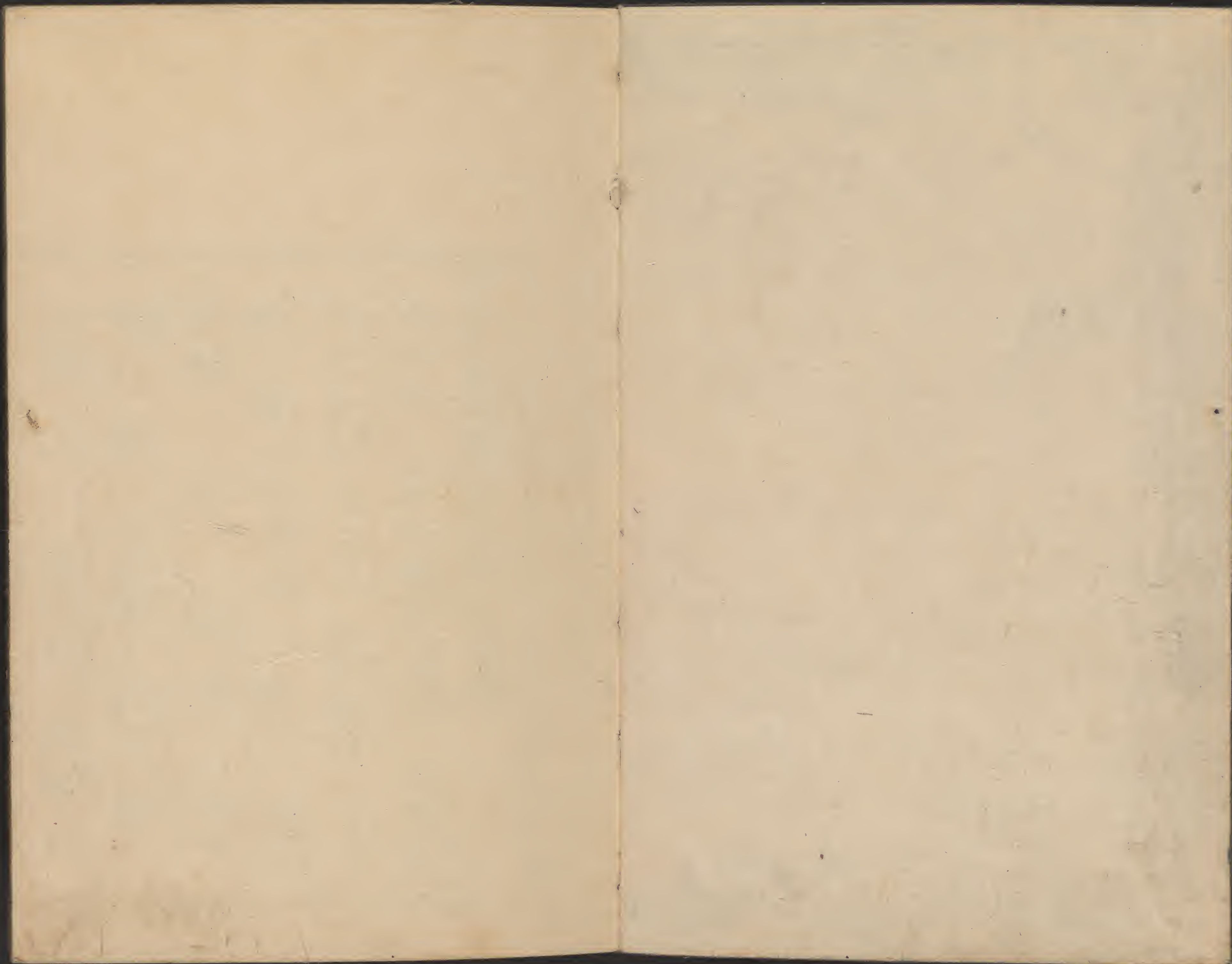


750
T2

弘存直物竅

六之上



繪本直指寶卷之六上目錄

大和松

海松雄木

唐杏

日雄木

大和若松

四つら松

海松雌雄

長條松

松植

竹栢羅漢松

栢

扁栢

系栢

榧

榧

榧

榧栢

楠

柳

白梅

紅梅

桃

系櫻

楊

海棠花

檜樹

柞

將軍木 檲 茗花 茶山花

松ノ露 孔雀 日尾示

松ノ訣

松を真本ありて法本長う多う大い深山谷に生る人家あり
移し種をりは時を費して葉は易ど諸本と後年へ多稔何
屈曲字まは其皮粗く厚しと鱗紋あり根は石を可くひく
地中へ窪出たり此樹は雌雄あり雄松も木の皮黒赤く葉を
くわらうくして熟り雌松も本葉うくして色赤くかす
あり葉は細くまやうにして色少く若味なり又雄松の葉は
て點々雌松も小く又赤く較多く結ぶ又一種海松もつた
元て松の葉は二針なり海松も六針なりよめてふふ名は
本乃枝葉のありて色黒く赤くそを葉の葉と名は
高貴のこく細く一葉長く軟なり今の子海松の葉は
物を少く粗くなり春に花開き其花を結ばば
夏に葉は伸尚木の幸へ通奏志六巻に出せり

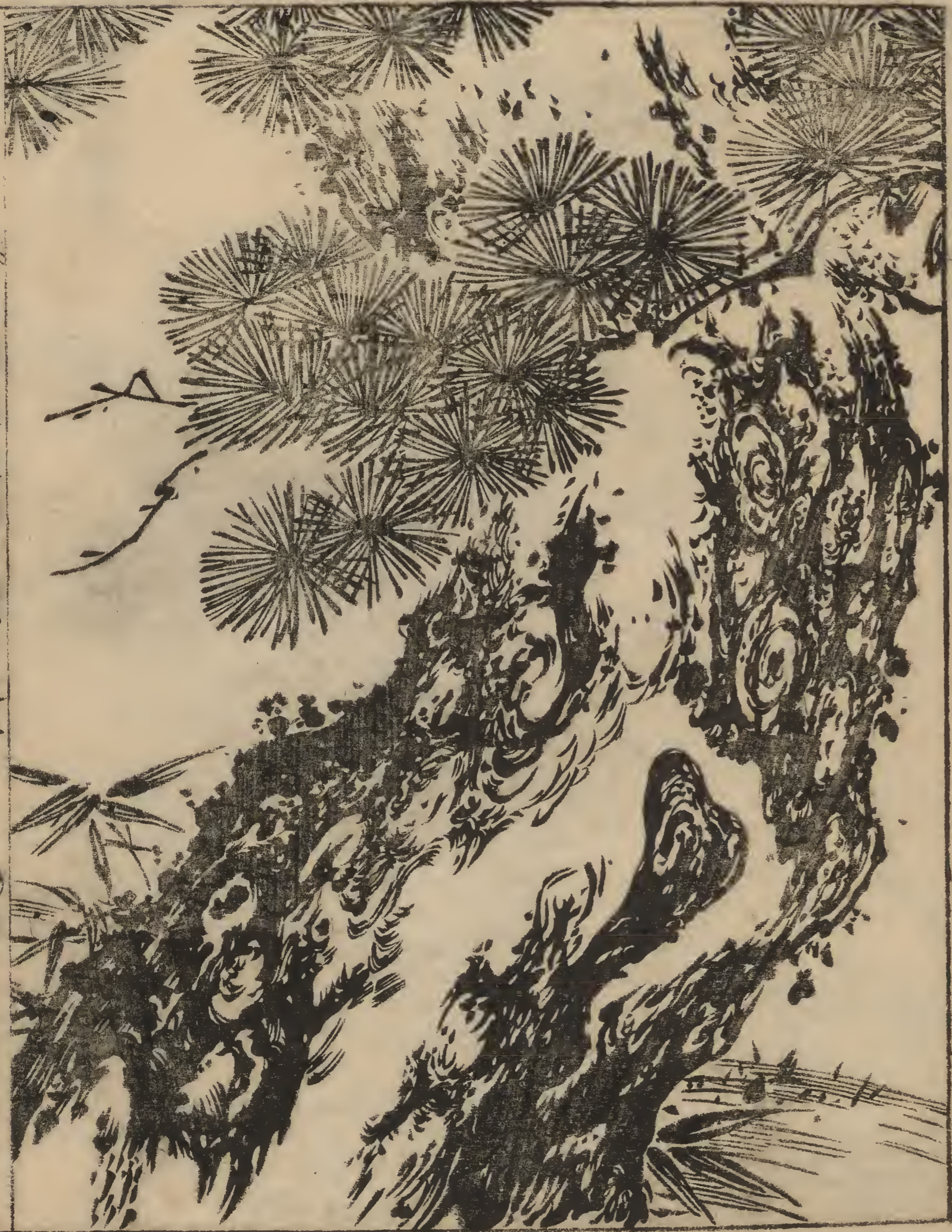


高帝後編一頁六十一



やまのまの
大和松
己くすつ

高帝後編一頁六十二



馬場文後編 續六十一



ごまをまろ
海松雄本
あつきの

馬場文後編 續六十一

三



寫帛袋後編之續六之山



海松此本
ごあふのまの

寫帛袋後編之續六之山

四

大和若松

大和若松



大和若松

大和若松

海松雄木
うらまの

若松

雌若松



海松雄木

海松雄木



杉スギ
 深山の本太本多し葉の針のぞく細みきみ過すをけ家トして
 赤くさう白ねありあやねあり直にまのぼくして雲と凌ぐ杉も直に
 とし小杉はうね枝はまぬぬの身れおとく一本とこさ出余るりもを

無錫録
 杉之類
 六之山
 六



馬蹄後編之續六之止
 六



寫綿袋後論之續六之上



史記に曰松栢の百本の長として宮園を守りしつう天抵栢乃種類
 を多し其状一は多別あり所謂 扁栢 圓栢 側栢
 卷栢 種有本ふとまき又餘なるもあり
 葉は板を名とほ本の直に堂り枝去て本の皮落く及赤黒く照るに
 剥理を板ふ似く栢より種をほまほ源種して雲の海一樹る
 若を引紋果ありて徳はまほ板を食むに似たり

無錫 栢 種 類 之 續 六 之 上



いざよ
 葉の形を名に本は松とて色思く皮粗く理も細きに若く見ると
 老と楸の皮は深緑表裏に二色と楸は赤と青の月景先より夏と倍ふ
 葉の形を名に本は松とて色思く皮粗く理も細きに若く見ると
 老と楸の皮は深緑表裏に二色と楸は赤と青の月景先より夏と倍ふ

無名
 松の皮は深緑表裏に二色と楸は赤と青の月景先より夏と倍ふ

鳥録 卷之三
三

楠スギノキ

大樹なり葉は楸に似て多く先尖れ本は堅く堅に腐れ極むことし
梅の年毎一丈の小條を出せども大本の幹は一年に一寸ま
たせぬとてともね圃の大本となりね百歳を経て陰を
まると云はるるなり本ぬとさ二丈余も朽もけり



鳥録 卷之三
三

馬綿衣後編之續



柳

柳をうら芽を雨と花のさけは六月に果ありて花はさきとく
くさきども早芽を候ふ言はれはと國とふに柳は越るる

馬綿衣後編之續

鳥綿袋後編の續六之十一
 鳥綿袋後編の續六之十一
 鳥綿袋後編の續六之十一

白梅畫譜

梅と稔の名也。して梅の本梅乃花と云て。けつと其せど。ふ山にあり。若し
 深い深谷に。人な。村里に。園に。梅の極物と云花。は白の。あり。本とし
 梅の葉の。微の。其。熟と。其。時。多と。入。梅。し。る。梅。の。梅。と。云。梅。を。法。花。は。先。き
 春乃。若し。より。開。な。花。の。只。し。り。り。を。完。梅。花。の。一。葉。を。雲。梅。花。の。二。葉。を。法。花
 して。香。甚。し。此。花。陽。を。は。さ。さ。る。な。花。葩。め。つ。なり。あり。早春。を。一。葉。を。葉。長
 中。熟。乃。白。梅。花。の。法。花。を。以。て。香。あり。を。法。で。香。中。小。梅。と。い。は。れ。り。た。こ。畫。工
 一。色。と。益。と。白。梅。の。一。葉。也。墨。乃。濃。淡。を。以。て。梅。花。を。あ。つ。と。内。凡。情。の。本。ま。る
 曲。の。勢。を。枝。と。さ。さ。さ。さ。い。さ。あ。と。梅。條。も。た。さ。い。梅。の。角。乃。で。り。の。か。り。梅。の
 ぞ。と。い。は。れ。る。條。梅。の。色。の。若。き。を。白。白。梅。と。い。は。れ。て。来。は。れ。は。蒼。り。と。あり。味。よ。る。物。と。い。り

紅梅乃訣

紅梅は春二月中旬の比に花をく。幸紅梅摩那六代の花の文深紅の
 産強一六代いうりして。花。若。あり。花。深。ま。は。く。外。濃。紅。肉。を。白。一。葉。を。白。の。其。甚。は。蒼
 深紅と幹は木密あり。小條とげり。す。と。出。一。丈。餘。り。延。花。は。三。方。面。小。枝。乃
 毛。と。り。末。ま。で。雨。を。さ。一。本。れ。を。層。ま。く。條。を。ひ。き。ら。お。ま。り。日。裏。あり。法。條。と
 幸紅梅の花の文少。一。葉。紅。を。花。密。せ。り。四。に。幹。を。木。條。條。も。同。一。株。若。美。之。法。花
 紅梅の。豊。後。梅。花。大。小。の。條。を。若。美。本。向。棘。條。の。文。を。幸。紅。梅。の。色。少。一。法
 葉。長。く。本。を。法。ま。く。枝。條。せ。り。と。本。條。豊。を。法。條。文。法。と。い。き。り



鳥綿袋後編の續六之十一

花をよみて海をさぐるはこれにあらん
今に紅梅の海をさぐるはこれにあらん
中よりさぐるのちり小條乃りこれにあらん
本は皮理つらさるるにあらん
花をよみて海をさぐるはこれにあらん
今に紅梅の海をさぐるはこれにあらん

花をよみて海をさぐるはこれにあらん
今に紅梅の海をさぐるはこれにあらん
中よりさぐるのちり小條乃りこれにあらん
本は皮理つらさるるにあらん



枇杷
様の本に似様と梅の皮は似たり葉は長く多様小似木の皮は
似たり花も似たり御根を花乃色濃見事なり



無錫林後續之編六之五



花をえどの下なり
四月ころり
去るるをん下なるを
ととらしよりとらしけ
會中志生をん下

母のいさむら
さくら白く
花はあつたま
美らくしや
うしろく
本とろくをまあひるけ

馬綿綖後編之續六之五

鳥錦後編之續六之五
 三十一

糸櫻
 垂枝
 垂糸

本を柳の如く花は紅皇赤く枝はうねをいひん様と
 花乃びぎし
 海棠と云はれ色白くは少し赤きなりあり花はうね
 糸を垂れしなりきりありは少し赤きなりあり花はうね
 あざざりて糸はうね

花はうねに似ては皇赤なりと云ふ

一やうな下ぎ

木葉くさく

あざざり



鳥錦後編之續六之五
 三十一

馬綿後編之續六之上

桜

山桜も花白く二重なり裏にめいめいさかめりり
うてお色あそくさみみぢりめいめいさかめりり



花ごめんきりちん
うすま
はげと先より
こけせめんーま
うてま向う
系朱とみ
或はうとさかめりり
先より生る下ま
中と下合

馬綿後編之續六之上

鳥飼後編之續六之五
三十一

海棠花

三月に花盛りなり花の枝梅より似て大さなり色は赤も白もあざうらそころすあつくせと花紅乃と花わけあり豊樹のおとと花ゆのめさう様と似る様は切とみさうなう切と似し

花さうに白くはさうり
木の梅桃栴何色も
葉さうあいろ居くけ
あいろまうさ
うう白く
うさ白く



鳥飼後編之續六之五
三十一

鳥鑑後編之續六之上
二五



機樹 紅葉身一也

機樹のく朱や
花より之まじり
せんとはもろき
中よりしるはるの
ほけさすまんとま
ふすまのく朱や
或はくまんとまはけ
本の草のけま

柞

木のきよき大根本細くして角多し葉楸に似く小なり小柏といふ霜の
後紅葉色小深或は半黄緑色或は黒赤或は朱紅をけりあり赤
さい背紅葉色丸楸楸楸栗皆似る柞におまよりて見ゆりあり

そのきりみぐらに
日事なり



鳥鑑後編之續六之上
二五

お軍木

秋の末色黄赤し葉の放散乃葉より似て葉けりにはあり
一種のちたうりしとひあり色朱れ



葉ワゴのく生あぐら
日節うと本葉うり
あいこま

柳

甚種類あり凡二十餘種柳を長く二月に葉を吐く六月に
なり表を緑衣白くすおの流紅葉あり朱のぞ



葉はあぐらぬり
生うりうまはあぐら
ワゴまはあぐらぬり
うり朱のくはあぐら
先下りうりまは
節うり白く
本葉うり
あぐらぬり

茗花

本の高さ三四尺枝は似て堅く又葉はげの本に似たり葉はまろくまろく
似てまろく出ればさきありてありて色深緑となりて本とわかれ出ればさきより
小條多く出るとある本は若しと似り刺のおよび古枝まろく葉は
三四月の比若葉出るとは九十日に葉は若く葉一葉の白梅はたごとく
久しく厚く葩あり公黄庭菜の葉に似たり若葉は長く
刺は葉と急げくみ茶梅の花とも云其月若葉を朱の世の秋合はて
本羽葉は名不より山崎園字法より出ると分一とす折字法葉はゆり義深
お軍世ふ康山殿と申と大内弁と云今命どく桂しあると云



花は白く
うすまろくさ白く
みぢいごらんはつき
一ワウウけ
葉の田わく一すう
うす白く
本とみまろくはけ
或は若くぬり
葉はまろくすう
葉のけけくま
あけ
ほり



茶山花

山茶の類は徳山茶より何より高き六七八丈あり一丈餘本細く
葉細長く女模に似たり長色深緑中筋あり身もく
小糸の長は花山茶より小なりて薄く又細長く長春花より
よく何より色大紅紅紫あり一葉深赤あり山茶より何
より何より花より本とて山茶より粉吹茶色若かり花の比
は深き紅なり九月より明二月とあり山茶の雌本あり



花は薄色生あんどのぐ
肉そこより一やうあんど
うすまそととこ一あり
一やうあんどのぐ
先よりくまきぶあん
あわいきりうはくき
葉ろく一やう



寫錦袋後編之續六



松鶴



寫錦袋後編之續六

鳥類の羽の分類

孔雀の尾の羽は、その色が青く、また、丸く、故に玉尾といふ。あまのつばき、あまのつばきの尾の羽は、その色が青く、また、丸く、故に玉尾といふ。あまのつばきの尾の羽は、その色が青く、また、丸く、故に玉尾といふ。

あまのつばき
尾の長さは、余



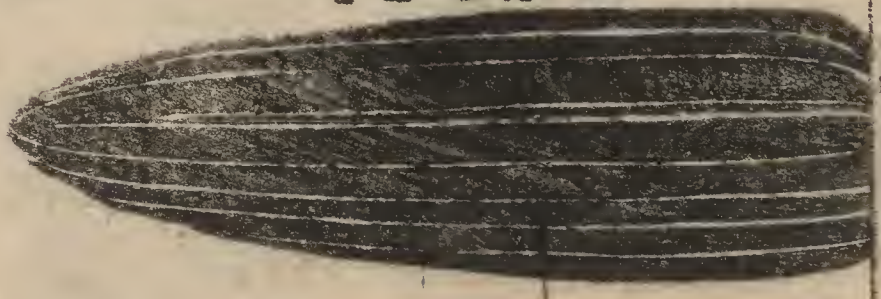
あまのつばき

あまのつばき

あまのつばき

あまのつばき

尾
三尾
色黒
二尾
あまのつばき



あまのつばき

あまのつばき

あまのつばき



